

第五講 西アジアにおける新石器時代

スライドによる授業を実施

西アジアにおける新石器遺跡の分布

レバント・・・ジェリコ・アインガザル・ムレイビットなど

小アジア南部・・・チャタルヒュイック・アシクリヒュイックカフェルなど

イラク北部・・・ケルメス・ネムリクなど

ウルファ地区

先土器新石器A (PPNA)

円形の住居

ナハルオレンの石器

祭祀用の建物

集落内墓地

装身具

祭祀用石器

ジェリコ

町を囲む石の城壁

物見櫓

壁を共有する民衆した住居

農業はいつから

旧モデル：狩猟採取→遊牧→牧畜→農耕

新モデル：狩猟採取→農耕→牧畜→遊牧

アブ・フレイラの植物種子

ナトゥーフ後期

野生種の植物種子

出土している植物種子の種類多い

野生種イネ科種子・・・30種以上

野生種マメ科種子・・・21種以上

その他野生種種子・・・89種以上

野生種果実種子・・・6種以上

野生種根茎類・・・10～15種

先土器新石器B

栽培種が圧倒的に多い

種類が少ない←人間による選別

圧倒的に栽培種の種子だが、それでも野生種の種子が出土している

但し、種類は厳選されている

穀物種イネ科種子・・・5種類

栽培種マメ科種子・・・3～4種類

野生種果実種子・・・3種類

野生根茎類・・・2～3種類

牧畜の開始

動物の骨の相の変化

ナトゥーフ前期～先土器新石器A

ガゼルの骨が圧倒的

狩猟を反映

先土器新石器B

ガゼルの骨急減

羊や山羊の骨の急増

牛の骨は増加

豚の骨も増加

レポート課題

西アジアにおける農業出現のモデルを書け。

何故ヨルダン川渓谷に新石器の遺跡が集中しているのか、その理由を考えなさい。